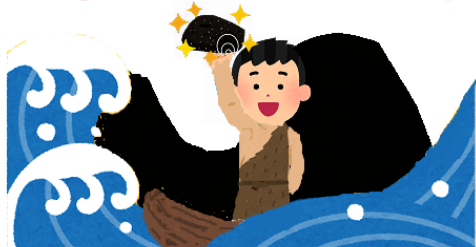


# 神津の黒曜石特集！！

## 津神 こども歴史新聞 第1回



神津島は「宝島」だった！  
命がけで海を渡る縄文人たち

関東の南の海に点々とある島の一つ、  
神津島。

ここに、私たち（縄文人）の生活に欠かせない石器（石でできたナイフなどの道具）のもととなる石「黒曜石」がたくさんあることを、皆さんは知っているだろうか？

今回は、神津島へ丸木舟（一本の大きな木を削って作った舟）を使って命がけで黒曜石をとりに行っている村人の一人に、

インタビューを行った。

はたして、どんな話が聞けるだろうか。

2018年9月18日  
神津小学校  
学童クラブ  
林 悠平

### 編集者から

縄文時代の人々にとって黒曜石は、今の電気やスマホと同じくらい生活に欠かせない「宝物」でした。なので、質の良い黒曜石があれば、遠い海の先にある島であっても命をかけてとりに行っていたのです。

### インタビュー

ーオブ村のヨウさんー

ーこんにちは！うわ、たくさんとりましたね！  
ヨウ.. おう、ここまで舟で運ぶの大変だったぜ！  
ー舟を使ってあの島から？

とてもキケンじゃないですか？  
ヨウ.. そりゃキケンさ。でも、あの島はとても質が良い黒曜石がいっぱいとれるからな、よその村の人たちも「この石がほしい」と言ってくるしな！

ーいつごろからこの石をとってるんですか？



オブ村のヨウさん  
話だと、この辺りに人が初めて来たころ（約3万8千年前）からとりに行っているみたいだぜ！

ーそんな昔から！ちなみに、その石は  
これからどうするんですか？  
ヨウ.. ほかの村の人に配るために、この石をたくさん集めて置いてある場所があるからそこに運ぶんだ！